

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：84603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370819

研究課題名(和文) 平安時代の『大般若波羅蜜多經』遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化

研究課題名(英文) A Comprehensive Survey of Heian-era Manuscripts of the Daihannya haramitakyo; and Their Transformation into Resources for Historical Study

研究代表者

野尻 忠 (Nojiri, Tadashi)

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・室長

研究者番号：10372179

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の中心に据えた慈光寺(埼玉県)所蔵『大般若波羅蜜多經』については、全152巻を開いて調査し、巻頭・巻末を欠く巻の巻次をすべて特定するなど、全貌を明らかにすることができた。寺外所在の傍巻も、埼玉県立歴史と民俗の博物館、大東急記念文庫、根津美術館などに赴いて調査した。以上の調査・研究成果は、豊富な図版及び書誌情報一覧とともに報告書に掲載し刊行した。

このほか海住山寺(京都府)、長弓寺(奈良県)、安楽寿院(京都市)等が所蔵する平安時代書写の『大般若波羅蜜多經』を調査し、慈光寺本も含めた研究成果は、奈良国立博物館の特別展「まぼろしの久能寺経に出会う平安古経展」(平成27年)に反映された。

研究成果の概要(英文)：In this survey, we mainly worked on a research for the Daihannyakyo sutra owned by Jiko-ji Temple, Saitama Prefecture. We investigated all 152 scrolls and took photographs of them. Some of them lost the beginning and the end of scroll, so their scroll numbers were unknown before our investigation. Through this research, we identified all of the scroll numbers. The results of this research such as mentioned above were included in the report which was published in May, 2017.

Additionally we investigated other owners' Daihannyakyo sutras copied in the Heian period, for example Kaijusen-ji (Kyoto), Chokyu-ji (Nara), and etc. We incorporated the results of the investigation into the "Special Exhibition of Ancient Sutras from the Heian Period: Encountering the Legendary Kuno-ji Sutras" held at Nara National Museum in 2015.

研究分野：日本古代史

キーワード：大般若經 安倍小水麻呂 慈光寺

1. 研究開始当初の背景

日本の古写経の研究は、『大般若波羅蜜多經』に限らず、奈良時代のそれに比べて平安時代のもが遅れている。特に平安時代前半は写経遺品そのものが少なく、図版での公開や書誌情報の提供も十分でない。

一方で、近年、奈良時代後半の写経を、個別遺品ではなく、総体として捉える研究がいくつか発表された。飯田剛彦「聖語藏経卷「神護景雲二年御願経」について」(引用文献)や野尻忠「藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経(魚養経)について」(引用文献)などがそれで、これらに続く平安時代の写経研究の必要性が認識されるに至った。

これとは別に、製作年代ではなく所在地域で区切った『大般若波羅蜜多經』の悉皆的な調査がおこなわれ、その報告が蓄積されてきていた(引用文献)。そうした成果を、地域横断的に、歴史学の資料として利用するための方法論が模索されていた。

引用文献

飯田剛彦、聖語藏経卷「神護景雲二年御願経」について、正倉院紀要、34号、2012年

野尻忠、藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経(魚養経)について、『天竺へ～三蔵法師3万キロの旅』(奈良国立博物館)、2011年

滋賀県教育委員会事務局文化部文化財保護課、滋賀県大般若波羅蜜多經調査報告書、1989～1994年

奈良県教育委員会事務局文化財保存課編、奈良県大般若経調査報告書、1992年

2. 研究の目的

本研究の代表者は、かつて8世紀の『大般若波羅蜜多經』の一つである通称「魚養経」387巻を対象に、全巻全紙の法量、界高・界幅、料紙の特徴、訓点・追記の有無、表紙の新旧、軸の形態など、あらゆる情報を採取する調査を実施し、報告書にまとめた。本研究は、それに引き続き、平安時代、特に研究の手薄な9～11世紀の『大般若波羅蜜多經』について同程度の詳細調査を実施し、数値化できるデータを比較対照して、時代的な特徴を明らかにすることにある。その中心課題として、貞観13年(871)の願文を持つ「安倍小水麻呂願経」を取り上げることにした。「安倍小水麻呂願経」は152巻が慈光寺(埼玉県ときがわ町)にまとまって伝来するほか、僚巻が各機関に分蔵される。一部の巻が写真で図録に載ったりしているが、これまでに悉皆的な調査成果が公表されたことはない。

このほか、天長・承和年間(824～848)頃の書写とみられる「池上内親王願経」、仁寿年間(851～854)書写の「大坂真長等願経」など、平安時代前半を中心とした『大般若波

羅蜜多經』の調査を実施し、この時代に製作された写経の全体像の構築に努める。

3. 研究の方法

(1)「安倍小水麻呂願経」のうち、慈光寺所蔵分152巻をすべて拵げて巻頭から巻末まで調査する。また寺外の僚巻についても同一の調査に基づく調査を実施する。得られた書誌情報はデータ化し、統計的な研究にも資する。

(2)平安時代(9～11世紀)に書写されたと考えられる『大般若波羅蜜多經』の所在調査を博物館・図書館等の蔵書目録に基づいて実施し、可能なものは原本を調査する。

(3)調査によって得られた情報に基づいて、平安時代における『大般若波羅蜜多經』の特徴、特に歴史学の研究のための基礎データとなる情報を提示する。

4. 研究成果

(1)慈光寺所蔵の「安倍小水麻呂願経」152巻をすべて拵げて巻頭から巻末まで調査し、また必要部分を写真撮影した。当初の想定よりも、巻頭・巻末部分を欠いて巻次不詳の巻が多くあり、その同定に時間を費やしたが、最終的にすべての巻次を特定できた。この調査の成果は、報告書『慈光寺所蔵「大般若経(安倍小水麻呂願経)」の調査と研究』に掲載し、印刷・刊行した。報告書には、152巻すべての巻の図版を1カットずつカラーで掲載し、紙幅をはじめとする152巻の基本情報を一覧表形式で掲載した。これまで存在はよく知られながら図版等で紹介されることのほとんどなかった、この『大般若波羅蜜多經』の全貌を学界に示したことの意義は大きい。豊富な図版と詳細な書誌情報は、写経原本を容易には閲覧できない多くの研究者にとって有用な研究資源となることは疑いない。

(2)「安倍小水麻呂願経」の僚巻を、時間の許す限り調査した。調査した所蔵機関は、宮内庁書陵部、埼玉県立歴史と民俗の博物館、埼玉県立嵐山史跡の博物館、大東急記念文庫、東洋文庫、根津美術館、等。また、江戸時代の慈光寺での保管状況が記された資料の調査のため、国立公文書館へ赴いた。調査の結果、裏打ちの状態や表紙裂の種類などから、慈光寺より流出する以前の状況、流出後の改変状況について、一定の知見を得られた。これら寺外の僚巻の所在情報についても、上記の報告書に掲載した。

(3)「安倍小水麻呂願経」の経文には訓点が付されていることは従前より知られていたが、調査を開始すると想定以上に多く存在することが確認されたため、国語学の研究者に助言を仰ぎ、印刷・刊行した報告書には慈光寺所蔵152巻すべての訓点情報を掲載することができた。

(4)そのほかの『大般若波羅蜜多經』では、9世紀の安楽寿院(京都市)所蔵本、11世紀の海住山寺(京都府)所蔵本、12世紀の長弓寺(奈良県)所蔵本などを調査した。これらは、時期と地域によって經典の書写体制にどの程度違いが生じるかを検証するための調査であるが、いまだ統計的な研究に耐えうる件数には至らず、調査途上である。

(5)慈光寺所蔵本を含む上記の平安時代書写『大般若波羅蜜多經』については、研究の中間報告といった内容ではあったが、奈良国立博物館で平成27年4月7日~5月17日に開催された特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」に調査成果が盛り込まれ、同展の図録に「概論 まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」を掲載した。また、同年11月には、埼玉県立歴史と民俗の博物館において「慈光寺所蔵の法華経と大般若経」と題する招待講演を実施した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

野尻忠、万昆嶋主解(天平宝字二年七月二十八日)(紙背 写千卷経所食物用帳断簡)(口絵解説)、正倉院文書研究、13号、査読無、2013、pp.244-246

野尻忠、古文書めぐり 奈良国立博物館の古文書、古文書研究、76号、査読無、2014、pp.105-113

〔学会発表〕(計 3 件)

野尻忠、写経遺品からみる宝亀初年の一切経書写と正倉院文書、人間文化研究機構連携研究「正倉院文書の高度情報化研究」研究会、2014年7月31日、国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)

野尻忠、慈光寺伝来の法華経と大般若経について、特別展「慈光寺 国宝 法華経一品経を守り伝えた古刹」記念講演、2015年11月8日、埼玉県立歴史と民俗の博物館(埼玉県さいたま市)

野尻忠、明治維新と廃仏毀釈、特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」、2016年7月18日、九州国立博物館(福岡県太宰府市)

〔図書〕(計 7 件)

佐伯俊彦・月本雅幸・野尻忠、勉誠出版、国宝 西大寺本 金光明最勝王経 天平宝字六年百濟豊虫願経、2013、372、pp.199-207

野尻忠ほか、奈良国立博物館、第六十五回正倉院展目録、2013、143、pp.128-131

野尻忠ほか多数、奈良国立博物館、まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展、2015、174、pp.6-15 ほか

野尻忠ほか多数、奈良国立博物館・読売新聞社・NHK プラネット近畿、白鳳 花ひらく 仏教美術、2015、300、pp.210-213

野尻忠、一般社団法人勉誠、国宝 日本書紀 卷第十残巻 紙背 性霊集(奈良国立博物館所蔵)、2015、4

野尻忠ほか、天理大学出版部、新天理図書館善本叢書 第一巻 古事記 道果本 播磨国風土記、2016、192、pp.1-8

鳥越俊行・湯山賢一・野尻忠ほか、奈良国立博物館、和紙 近代和紙の誕生、2016、13、pp.4-5,12-13

野尻忠責任編集、奈良国立博物館、慈光寺所蔵「大般若経(安倍小水麻呂願経)」の調査と研究、2017、128、pp.1-19,35-128

野尻忠ほか多数、法蔵館、東大寺の新研究 2 歴史のなかの東大寺、2017、742、pp.157-177

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

野尻忠(NOJIRI, Tadashi)
奈良国立博物館・学芸部・室長
研究者番号：10372179

(2)研究分担者

齋木涼子 (SAIKI, Ryoko)
奈良国立博物館・学芸部・研究員
研究者番号： 90530634
(平成 26 年度より研究分担者)

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4) 研究協力者
()